



2021年4月9日

各位

上場会社名 株式会社 PALTEK
 代表者 代表取締役社長 高橋 忠仁
 (コード番号 7587)
 問合せ先責任者 常務取締役オペレーションサービスディビジョン本部長 井上 博樹
 (TEL 045-477-2000)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2021年2月9日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

2021年12月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(2021年1月1日～2021年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	13,800	80	40	25	2.28
今回修正予想(B)	15,000	250	125	85	7.76
増減額(B-A)	1,200	170	85	60	
増減率(%)	8.7	212.5	212.5	240.0	
(ご参考)前期第2四半期実績(2020年12月期第2四半期)	15,874	225	153	143	13.11

2021年12月期通期連結業績予想数値の修正(2021年1月1日～2021年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	29,600	400	320	220	20.08
今回修正予想(B)	29,600	485	320	220	20.08
増減額(B-A)	—	85	—	—	
増減率(%)	—	21.3	—	—	
(ご参考)前期実績(2020年12月期)	29,556	172	43	57	5.29

修正の理由

【第2四半期(累計)連結業績予想について】

第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は半導体事業においてPCやファクトリーオートメーション向けなどでメモリやアナログICの販売が想定よりも堅調に推移することが見込まれるため、売上高は増加する見通しです。

営業利益につきましては、売上高増加に伴い売上総利益が増加することに加え、第1四半期においてドル円相場が急速に円安基調で進行したことにより、仕入値引ドル建債権の評価額の増加を含む為替レート変動によるプラス影響が93百万円発生し売上総利益の押し上げ要因となることを見込まれることから、営業利益は想定を上回って推移する見通しです。

経常利益につきましては、第1四半期末においてドル円相場が円安基調で進行したことにより、仕入先への支払いなどにおいて為替差損が発生することが見込まれるため営業外費用が増加するものの、営業利益の増加に伴い想定を上回って推移する見通しです。

親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、経常利益の増加に伴い、想定を上回る見通しです。

この仕入値引ドル建債権は、一部の主要仕入先との取引方法において発生します。量産案件において特価を提示する場合、実際の仕入値の減額ではなく、当社がお客様に製品を出荷したことを仕入先に報告することによって、仕入先から仕入値の減額相当分の値引債権が発行されます。この値引債権がドル建であるため、為替相場の変動によりドル建債権の評価額が増減します。評価額の増減については、半導体製品の値決め時の為替レートと納入時の為替レートの差により発生するため、ドル円相場が円高に進行する際には評価額がマイナスになり、特に為替変動が急速である場合には評価額の増減幅が大きくなります。

【通期連結業績予想について】

現在、世界的な半導体需要の増加により、半導体製品の調達期間が大幅に長期化しており、お客様の希望納期に沿った半導体製品の販売が困難な状況になってきております。これにより、下期における半導体事業の売上高が減少することが見込まれるため、通期売上高は当初業績予想から変更しておりません。

営業利益につきましては、前述のとおり第1四半期に発生した仕入値引ドル建債権の評価額の増加を含む為替レート変動によるプラス影響により増加すると見込んでおります。経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、第1四半期における為替差損発生の影響を考慮したことにより、当初業績予想から変更しておりません。

(※) 上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により上記予想数値と異なる場合があります。

以 上